

04・薬の効果はまだ続いているけど、庭でゆっくりおしゃべり

本編03『母乳体质になってしまったので、思いつきり授乳搾乳プレイでイカされる』
から数日後。

とある年の晩秋。十八時ごろ。

場所は主人公とクロエが暮らす家の庭。

天気は晴れ。室温は十八度度。

長時間は厳しいが、少しくらいなら、外にいても問題ない気温である。

主人公、庭でベンチに座つて、クロエの帰宅を待つていてる。

家の中で待つていればいいと言われそうなものだが、今日は待つていたい気分だったのだ。

SE1 外の環境音

【最初から最後まで流す】

【繰り返して流す】

【0～10秒ほど流してSE2】

【その後、音量が小さくなる】

【ごく小さな音量で流す】

【場面転換するまで流し続ける】

SE2 クロエの足音1

【最初から最後まで流す】

【10メートルほど離れた位置から、だんだん近づいてきて、5メートルほどの距離で止まる】

するとそこへ、クロエが帰つてくる。

当然ながら、主人公を見て意外そうにしている。

▲ボイス加工あり

【5メートルほど離れた位置から聞こえる】

●正面 50センチ

【少しキヨトンとした様子で。

家の中にいるだろうと思っていた主人公が、なぜか庭先にいるので】

ただいま……】

（主人公）

「おかれりなさい！」

S E 3　主人公が立ち上がる音

【最初から最後まで流す】

主人公、立ち上がってクロエを出迎える。

家の外であまりはしゃぐのもどうかと思うが、最愛の恋人の帰宅が嬉しいのだ。
まあ、大目に見て頂きたい。

S E 4　クロエの足音2

【最初から最後まで流す】

（5メートルほど離れた位置から、だんだん近づいてきて、1メートルほどの距離で止まる）

▲ ボイス加工あり

（5メートルほど離れた位置から聞こえる）

●正面 50センチ

「少しキヨトンとした様子で。

だが、嬉しそうに。

家の中にあるだろうと思っていた主人公が、なぜか庭先にいるので】

庭に居るの珍しいね。

もしかして、待つててくれたの？」

△主人公△

「うん……♥まあ、そういう事よ。

今のうちに庭も堪能しておきたかったし」

主人公が照れつつも認めると、クロエは嬉しそうにする。

そう、じきにこの庭の木も葉が落ち、庭どころかこの街すべてが冬景色となる。

今のこの風景を、今のうちに記憶に収めておきたいのである。

SE5 クロエの足音3

【最初から最後まで流す】

【1メートルほど離れた位置から、だんだん近づいてきて、50センチほどの距離で止まる】

●正面 50センチ

「きやつときやと嬉しそうに。

主人公が待つていてくれた事が嬉しいので

え、嬉しい♪

【しみじみと。主人公の発言を受けて】

そうだよね……。もうすぐ寒くなるもんね。

この景色見るなら、今のうちつて事か。

【少し声のトーンが上がつて嬉しそうに】

じやあ、あたしも。

せつかくだから、ちよつとゆつくりしてこうかな？】

S E 6 主人公とクロエがベンチに座る音

【最初から最後まで流す】

こうして主人公とクロエは、庭のベンチに並んで座る事となつた。

クロエはこの通り、大抵の主人公の提案を前向きに受け止めてくれるのである。主人公は頭をクロエに向けている。

なので、声の方向は正面のまま。

7秒ほど沈黙。

●正面 50センチ

「しみじみと嬉しそうに。

クロエもまたこの庭の景色が好きなので】
はー……♥

ここ落ち着くよねえ……。

いつまでもいれる気がするもん。
たまにはこういうのもいいね。

【しかし、ふと気になつて。

もう回復したとは思つてゐるが、もしそうでないなら、この寒さは身体に障るので】
ところで……どう？ 体調は】

〈主人公〉

「もうすっかりいいわ！ 明日からは復帰しようと思つてる」

主人公、ぶんぶんと両腕を上下にさせてみたり左右に振ってみたりして、元気さをアピールする。

クロエはそれを、微笑みながら見て いる。

●正面 50センチ

「嬉しそうに、安心した様子で】

ほんと？ よかつたあ。

うん。あたしも、そろそろ復帰してもいい頃合いだと思う。

【少しだけコミカルに。

深々と頭を下げながら話しているイメージで】

療養、お疲れ様でした】

〈主人公〉

「とんでもない。クロエこそ、本当にお疲れ様。

色々面倒をかけてしまったわよね。

その節は本当にありがとう」

●正面 50センチ

「にこにこと嬉しそうに。

主人公の回復が喜ばしいので
いえいえ♪

【少し間をあけてから。

※息づかいのみ※ で表現する。

ホツと落ち着いたようなため息】

はー……。

【しみじみと。

事故から今日までの出来事を振り返る】

事故からこの一週間、長いようで短かつたよねえ……。

最初は不安だつたけど、何事もなく回復してよかつたよ】

〈主人公〉

「まったくだわ。一時はどうなる事かと思つたわよ】

●正面 50センチ

【にこにこと嬉しそうに。

主人公の回復が喜ばしいので】

とんでもない。あなたの幸せが、あたしの幸せですから♥
明日からはまた、元気な姿をみんなに見せてあげようね』

〈主人公〉

「もちろんよ！ 休んでた分を取り戻すべく、ぱりぱり労働させていただくわ』

●正面 50センチ

「にここにこと嬉しそうに。

主人公の回復が喜ばしいので】

うん、うん♪

もう、やる気一杯だね』

主人公とクロエ、並んで微笑み合う。

暖かで優しい空気が、庭に満ちる。

●正面 50センチ

「しみじみと。

今度は、同居するようになつてからの経緯を振り返る】

そうだ……長いようで短かつたといえば。

ここに住むようになつてからも、あつという間だつたねえ」

「主人公」

「え？」

するとここで、クロエはふと過去の話を始めた。

それ自体は全く構わないが、少々意外な展開ではある。

●正面 50センチ

「しみじみと。

今度は、同居するようになつてからの経緯を振り返る。

今となつては笑い話だが、当時は大変だつた事を振り返る

覚えてる？

春頃さあ、あなた、国研（こくけん）で色々あつて。

新しい仕事、なかなか決まらなくて……」

「主人公」

「ああ……。

あつたわねえ、そんな事。

その節も本当にお世話になつたわね……。

わたし、あなたがいなかつたら、一体どうなつていた事やら

●正面 50センチ

「しみじみと。

笑いつつ、引き続き今度は、同居するようになつてからの経緯を振り返る。

今となつては笑い話だが、当時は大変だつた事を振り返る】

あはつ。あの時は大変だつたけど。

無理やりにでも『一緒に住もう』って言つて、よかつたよ。

お陰で今もこうしていられるし。

あなたも今のお店で働けてるし】

〈主人公〉

「……」

●正面 50センチ

「少しトーンを落として。

笑いつつも『情けない話だけど……』と言う感じで。

主人公は当然知っている事だろうが、改めてこの件を話す

実は……あの頃さあ。

あたし、いつも人の目え氣にして生きてたんだよね』

△主人公

「え……？　えっと。そうだつたの？」

主人公、この件については、もちろん知っている。

クロエがその実力や容姿に対し及び腰で、これまで様々なチャンスを逃してきた事は、主人公にとつても長年の懸念事項だつたからだ。

だが『そうだつたわよね』という返答は、相槌として適さないような気がする。なので、ひとまず続きを促す。

●正面 50センチ

「ちょっと自嘲して。

クロエにとつてこれは、失敗の時間なので。

そして補足するように当時の事を振り返つていく

うん。

何するにも他の人に『何言われるか』『どう思われるか』そんな事ばかり考えてたの。

【少し間をあけてから。】

穏やかに、でも実感をもつて言う

でもさあ、それで幸せになつた事なんて別になかつたんだよね。

つて事に、あの頃気づいて……。

【少し間をあけてから。】

少し明るいトーンになつて。

自分を変えた結果、現在があるので

だからね、やめたんだ。

これからはいつでも、自分のしたい事をしようつて……。

それで、ついに好きって言つて。

『あたしと居よう』って言えたの』

〈主人公〉

「クロエ……」

クロエ、ここでふと主人公の顔を覗き込む。
そのまま、顔を近づけてキスをした。

●正面 0センチ

「〔※1回※ キスする。

軽く触れるだけのキス】

ちゅ。

【少し間をあけてから。

穏やかに、でも嬉しそうに笑う】

ふふ
♥

【穏やかに優しく、でも実感を込めて。

主人公を見つめながら話しているイメージで】

大好きだよ。

あたしの気持ちに応えてくれて。恋人になってくれて……ありがとう。

【※3回※ キスする。

軽く触れるだけのキス。先程よりも甘い雰囲気】

ちゅ♥ ちゅつ♥ ちゅ……♥

【少し間をあけてから。

ほつと溜息をつくような感じで。

穏やかに、でも嬉しそうに、実感を込めて言う
あー……。好きだつて言つて、本当に良かつた……。

【※3回※ キスする。

軽く触れるだけのキス。先程よりも甘い雰囲気

ちゅ ♡ ちゅ ♡ ちゅ ♡

【※大きく息を吸つて※ 話す。

主人公の匂いを嗅いでいるイメージ】

はー……いい匂い。

あたし、あなたの匂い大好き。

【※大きく息を吸つて※ 話す。

主人公の匂いを嗅いでいるイメージ】

すーつ……はー……すー……

【※1回※ キスする。

軽く触れるだけのキス。先程よりも甘い雰囲気】

ちゅ ♡

【優しく穏やかに】

大好きだよ ♡

△主人公△

「クロエ……♥」

言うと、クロエは少しだけ離れ、元の距離に戻る。

だが主人公は、この思わずタイミングの告白に思わずときめいてしまつて、なんだか体が熱くなってきた。

頃合いとしては、そろそろ家に入るべきだ。

もちろんそれはいい、それはいいのだが、ここで終わりたくない事がある。
それは……。

●正面 30センチ

「少し間をあけてから。

さらりと話題を切り替える。

あまり長い時間ここに居てもよくないので】

じやあ、身体も冷えるしそろそろ……」

△主人公△

「あつ……。

えつと、クロエ、その……」

●正面 30センチ

「少しキヨトンとした様子で。

主人公がまだ何か言いたげなので一
ん？」

〈主人公〉

「えつと……
♥」

主人公がもごもごと恥ずかしそうに見つめると、察しのいいクロエはもうそれですべて
を理解したらしい。

嬉しそうににやにやとこちらを見ると、こう言つた。
……さすがは、主人公の十年来の付き合いである。

●正面 30センチ

「【穏やかに、でも嬉しそうにからかう。

主人公が何やらその気らしい事が嬉しいので】

えつ？ 何？

なんかむずむずしてきちゃったの？

薬の効果、実はまだ継続中？

あー。そもそも。

実は最初から。

早くあたしといちやいちやしたくて、外で待つてたつて事？

……やらしー♥』

クロエ、『正面0センチ』のまま『無聲音ささやき』をする。

●正面 0センチ 『無聲音』ささやき ※マークのセリフまでささやく

「【そつとささやく。

甘くそつと、でも少し悪戯っぽくささやく】

いいよ……♥

家入つて。思いつきりいちやいちや、しよう……♥』※

ここでフェードアウトして終了。